

この計画書は参考として提示するものであり、受注した工事の内容や現場状況等に応じ適切に作成しなければならない。

(様式2-1)

平成 年 月 日

福岡市長様

請負者 住所

氏名 印

平成 年 月 日に契約しました下記の工事については、次のとおり（協議・承諾・通知・提出・報告・届出・検査・確認・立会・請求・その他（ ））を（願います・いたします。）

工事名	〇〇〇〇〇〇〇工事
工事箇所	福岡市〇区〇〇地内
工期	自平成〇年〇月〇日 ～ 至平成〇年〇月〇日
請負金額	〇〇, 〇〇〇, 〇〇〇円
(内容)	<u>施工計画書</u>

平成 年 月 日
福岡市 局 部
課長 印

上記について、下記により（承諾・受理・通知・その他（ ））します。

記

※押印の上、一部返送願います。（二部作成）

目 次（作成例）

- 土木工事共通仕様書に示された施工計画書に記載を求める項目。
- 主要資材については、材料承諾願いで確認できることから、作成は不要とする。〈類似する内容の省略〉

- 1 工事概要及び内容
- 2 計画工程表
- 3 現場組織表
- 4 安全管理
- 5 指定機械
- 6 施工方法
- 7 施工管理計画
- 8 緊急時の体制及び対応
- 9 交通管理
- 10 環境対策
- 11 現場作業環境の整備
- 12 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法
- 13 その他

1 工事の概要及び内容（作成例）

（作成上の留意点）

○現場位置図，図面等の添付は，不要とする。〈従来ルールの徹底〉

（1）工事概要

工事名 ○○○○○工事
工事場所 福岡市○区○○地内
契約日 平成○○年○○月○○日
工期 自 平成○○年○○月○○日
至 平成○○年○○月○○日
請負代金 ○○○，○○○，○○○円
受注者 ○○○建設(株)

（2）工事内容

施工延長 ○○m
・土工 掘削 m³
盛土 m³
・擁壁工（L型擁壁） ○○m（高さ○○m）
・排水工（○○側溝） ○○m

2 計画工程表

(作成上の留意点)

- 各工種，種別，細別の区分の記載内容は，工事数量総括表をもとに整理する。なお，その配列は施工順序や関連工事を考慮する。

3 現場組織表

(作成上の留意点)

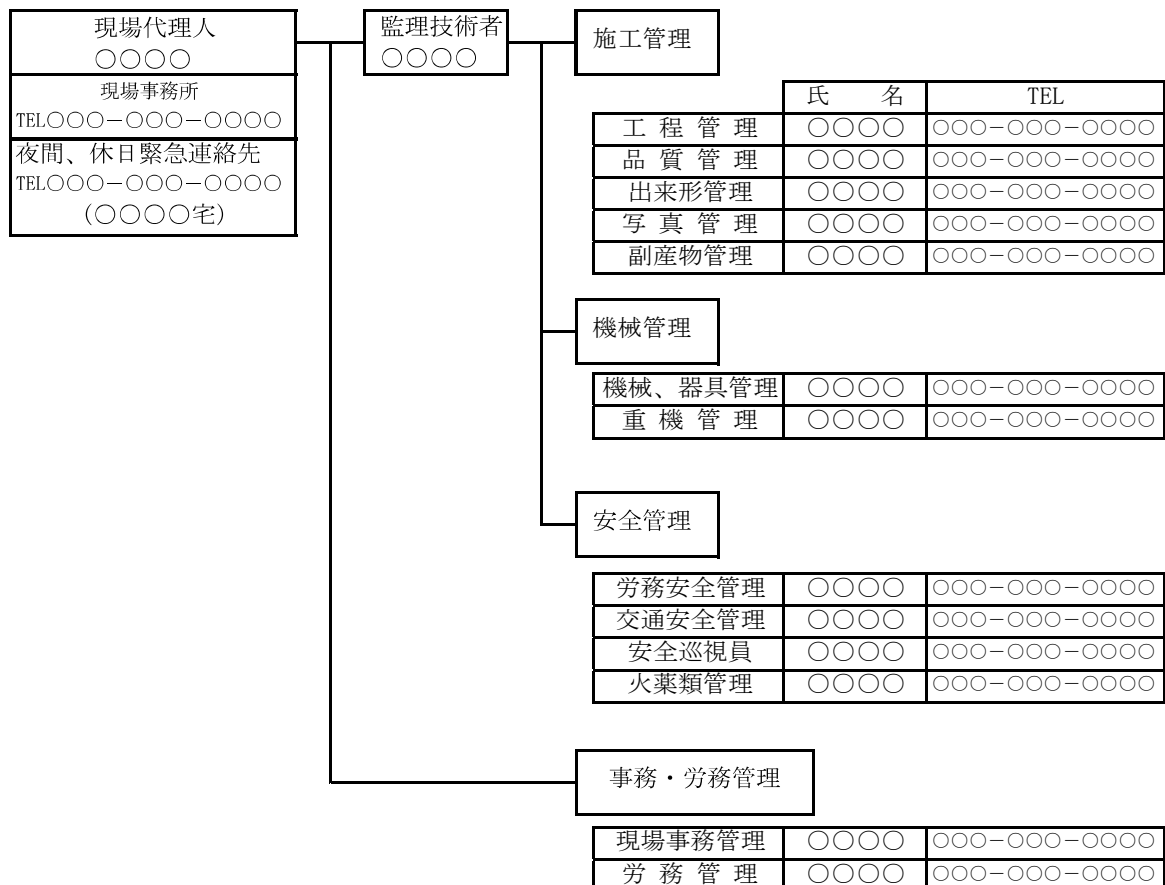
○ 現場組織表は、現場における組織の編成及び命令系統並びに業務分担がわかるように記載する。

○ 次の書類の添付は不要とする。〈従来ルールの徹底〉

- ・ 施工体系図
- ・ 建設業の許可証の写し
- ・ 主任技術者、監理技術者等の有資格者証の写し
(圧接工、溶接工のみ添付が必要)
- ・ 健康保険被保険者証の写し

【作成例】

現 場 組 織 表



4 安全管理

(作成上の留意点)

- 次の項目を参考にして、必要な安全管理計画を作成する。
 - ・ 安全衛生管理体制
 - ・ 労働者の危険又は健康障害を防止するための対策
 - ・ 労働者の就業にあたっての対策
 - ・ 第三者施設に対する安全対策
 - ・ 爆発及び火災防止対策
 - ・ 工事車両・重機類の事故防止対策
 - ・ 足場・型枠支保工等仮設の安全対策
 - ・ 大雨・強風等の異常気象
- その他法令・指針等の定めにより、必要な項目は適宜作成する。

5 指定機械

(作成上の留意点)

- 設計図書で指定されているもの、又は監督員が必要と認めたものについて指定機械一覧表を作成する。

6 施工方法

(作成上の留意点)

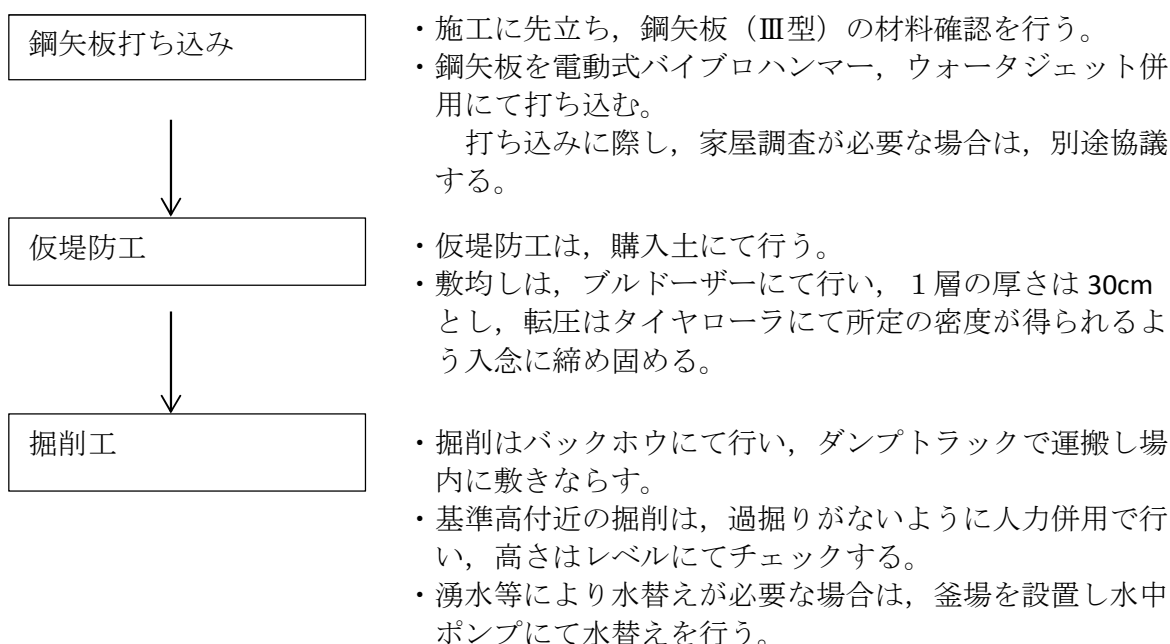
○主要工種ごとの作業フロー

当該工種における作業フローを記載し、各作業段階について記述する。

○記載事項 (参考)

- ・ 工事個所の作業環境 (周辺の土地利用状況, 自然環境, 近接状況等) や主要な工種の施工時期 (降雨時期, 出水・濁水時期等) について
- ・ 施工上の留意事項及び施工方法の要点, 制約条件 (施工時期, 作業時間, 交通規制, 隣接地権者), 関係機関との調整事項について
- ・ 基準点や地下埋設物, 地上障害物に関する防護方法について
- ・ 仮設の構造, 配置計画について
(位置図, 概略図等を用いて具体的に記述)
- ・ 現場事務所, 仮置き場, プラント等の機械設備, 運搬路, 仮排水, 安全管理に関する仮設備等について
- ・ 通常の施工方法により難しいもの (例: 新技術による施工等)
- ・ 設計図書で指定された工法
- ・ 共通仕様書に記載されていない特殊工法
- ・ 共通仕様書において, 監督員の「承諾」を得て施工するもののうち, 事前に記述できるもの及び施工計画書に記述することとなっている事項。

(作成例) [作業フロー (土留工・掘削工)]



7 施工管理計画

(1) 工程管理

(作成上の留意点)

- 2 計画工程表で検討された工法と資機材の調達計画等を具体化し、適正な組合せ及び配置を記載する。

(2) 品質管理

(作成上の留意点)

- 工種ごとの基準（仕様書や設計図書等）に適合した管理方法，試験方法及び回数を記載する。

【作成例】

工種	種別	試験項目	規格値	施工規模	試験頻度	試験回数	管理方法	摘要
路体盛土	盛土材料	土の締固め試験	設計図書による.	5000 m ³	当初及び土質の変化時	1回	試験成績表	
	施工	現場密度の測定	最大乾燥密度の85%以上	5000 m ³	1000 m ³ /回	5回	試験成績表 ・成果一覧表	
路床盛土	盛土材料	土の締固め試験	設計図書による	700 m ³	当初及び土質の変化時	1回	試験成績表	
		CBR試験	設計図書による	700 m ³	//	1回	//	
	施工	現場密度の測定	最大乾燥密度の90%以上	700 m ³	500 m ³ /回但し 500 m ³ 未満3回	3回	試験成績表 ・成果一覧表	
		ブルーフローリング		700 m ³	全幅、全区間	1回		
下層路盤工	路盤材料 (クラッシャー)	修正CBR試験 ふるい分け試験 土の液性限界・塑性限界試験	修正CBR20%以上 塑性指数PI6以下	400 m ³	施工前及び材料変更時	1回	試験成績表	
	施工	現場密度の測定	最大乾燥密度の93%以上 X ₁₀ :95%以上 X ₆ :96%以上 X ₃ :97%以上	2680 m ²	1000 m ² /回	3回	試験成績表 ・成果一覧表	
			ブルーフローリング		2680 m ²	全幅、全区間	1回	
函渠工	コンクリート 21-8-20	圧縮強度試験	1回の試験：呼び強度の85%以上 3回の平均：呼び強度以上	500 m ³	打設日1日につき2回(午前・午後)	3回	試験成績表 ・成果一覧表	
		スランプ試験	8cm±2.5cm					
		空気量測定	±1.5%(許容差)					
		塩化物含有量試験	0.3kg/m ³ 以下	500 m ³	打設日18日につき2回ただし、午前の試験結果が規制値の1/2以下の場合は午後の試験を省略できる。	3回	試験成績表	

(3) 出来形管理

(作成上の留意点)

○施工計画書では、出来形管理計画表（総括表）のみの提出とする。

施工管理基準に基づき、管理測点、寸法計測位置、回数などを具体的に定める。

○不可視部については、測定方法、箇所等適切に検討し、計画を立案する。

○施工規模に見合った測定箇所、頻度となっているか。

○出来形管理図表は施工計画書に添付せず工事完成時の提出とする。〈従来ルールの徹底〉

なお、工事完成後の不可視部分等については、総括表（測定方法、箇所等）により監督員に確認し、手戻りのないよう配慮する。

【作成例】

種別	細別	管理項目	規格値	管理方法	施工規模	測定基準・箇所	摘要
土工	路体盛土工	基準高	±50	出来形管理図表・ 出来形展開図	160m	40mに1箇所 No.20 No.22 No.24 No.26 合計4ヶ所	
		法長	-100				
		幅	-100				
	法面整形工	厚さ	-30	出来形管理図表	160m		
カルバート工	砕石基礎工	幅	設計値以上	出来形管理図表	200m	両端・施工継手 及び図面の寸法 表示箇所	
		厚さ	-30				
		延長	各構造物の 規格値 による				
	均し コンクリート	幅	設計値以上	出来形管理図	200m		
		厚さ	-30				
		延長	各構造物の 規格値 による				
	躯体 コンクリート	基準高	±30	出来形管理図	200m		
		厚さ	-20				
		幅	-30				
		高さ	±30				
延長		-100					

(4) 写真管理

(作成上の留意点)

○工事完成後隠れて見えなくなる部分(不可視部分)について、後日使用材料の品質や構造物の寸法が設計図どおりであることを証明するため、写真管理基準に従い撮影計画を作成する。

品質管理撮影計画表

工程	種別	試験項目	撮影箇所	撮影回数	撮影頻度	摘要
路体盛土	盛土材料	土の締固め試験	〇〇試験室	1回	土質毎1回	
	施工	現場密度の測定	No.21	1回	土質毎1回	
路床盛土	盛土材料	土の締固め試験	〇〇試験室	1回	土質毎1回	
		C B R 試験	〃	1回	土質毎1回	
	施工	現場密度の測定	〃	1回	土質毎1回	
		プルーフローリング	全区間試験状況	1回	土質毎1回	
下層路盤工	施工	締固め密度の測定	No.25	1回	路盤毎1回	
		プルーフローリング	全区間試験状況	1回	路盤毎1回	
カルバート工	コンクリート 21-8-20	圧縮強度試験	函渠躯体1週・4週	1回	コンクリートの種類毎1回	
		スランプ試験	函渠躯体打設時			
		空気量測定				
		塩化物含有量試験				

出来形管理撮影計画表

工種	種別	撮影項目	撮影箇所	撮影時期	撮影回数	撮影頻度	摘要
路体盛土	敷均し 締固め	巻出し厚さ	No.21	巻出し時	1回	200mに1回	
		締固め状況	No.21	施工中	1回	転圧機械が変わる毎に1回	
		法長・幅	No.21	施工後	1回	200mに1回	
路床盛土	敷均し 締固め	巻出し厚さ	No.23	巻出し時	1回	200mに1回	
		締固め状況	No.23	施工中	1回	転圧機械が変わる毎に1回	
		法長・幅	No.23	施工後	1回	200mに1回	
下層路盤工	敷均し 締固め	敷均し厚さ、 転圧状況	No.21	施工中	1回	各層毎500mに1回	
		整正状況	No.21	整正後	1回	各層毎500mに1回	
		仕上り厚さ	No.21	整正後	1回	各層毎200mに1回	
		仕上り幅	No.21 No.23	整正後	2回	各層毎80mに1回	
カルバート工	基礎砕石 均しコンクリート	幅・厚さ	No.21+8	施工後	1回	40mに1回	
		幅・厚さ	No.21+8	施工後	1回	40mに1回	
	躯体コンクリート	鉄筋位置 間隔・継 手寸法・か ぶり寸法	No.21+8	組立後	3回	打設ロッド毎に1回	
		養生状況	No.21+8	養生時	1回	養生方法毎に1回	
		幅・高さ・厚さ	No.21+8	型枠解体後	1回	100mに1回	

8 緊急時の体制及び対応

(作成上の留意点)

- 事故又は災害時の緊急事態発生時に対応できるよう、監督員・関係機関・受注者等への連絡系統図を作成する。

9 交通管理

(作成上の留意点)

- 次の項目を参考に、必要な交通管理計画を作成する。
 - ・工事用運搬路として一般道路を使用するときの対策及び歩行者等第三者に対する対策
 - ・工事用資材・機械を輸送する時の輸送経路・期間・方法・交通誘導警備員の配置・標識及び安全施設の設置場所など。
輸送経路及び配置・設置場所等は、平面図・略図等で具体的に記載する。
 - ・一般道路に係る工事の安全対策
 - ・指定された工事用道路の新設・改良・維持管理・補修及び使用方法
 - ・工事用道路を共有するときの対策
 - ・一般道路上の材料又は設備等の保管・整理方法
 - ・過積載防止対策
- その他法令・指針等で定められた内容は遺漏なく記載する。
- 道路使用許可証の写しは、施工計画書への添付を不要とする。〈従来ルールの徹底〉ただし、監督員は、施工計画書とは別に写しの提出を受注者に請求できることとする。

10 環境対策

(作成上の留意点)

- 工事現場の生活環境の保全と、円滑な工事施工を目的として建設工事に伴う騒音振動対策技術指針・関係法令・仕様書の規定を遵守のうえ、次の項目について 対策を検討する。
 - ・騒音・振動対策
 - ・水質汚濁
 - ・ゴミ・ほこりの対策
 - ・事業損失防止対策（家屋調査・地下水観測等）
 - ・その他必要事項

1 1 現場作業環境の整備

(作成上の留意点)

○作業環境の整備に関し、次の項目について対策を検討する。

- ・仮設関係
- ・安全関係
- ・営繕関係
- ・その他必要事項

1 2 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法

(作成上の留意点)

○工事の内容により、必要な様式を作成する。

様式は福岡市HPに掲載。

HOME>経済・産業・ビジネス>契約・入札・公共工事・公募>公共工事の技術情報>参考様式ダウンロード(工事)

・建設発生土受入承諾書(様式-3)

・再生資源利用計画書(様式-6)

(土砂使用量が1,000m³以上
砕石使用量が500t以上
加熱アスファルト混合物使用量が200t以上)

・再生資源利用促進計画書(様式-7)

(建設発生土の発生が1,000m³以上
産業廃棄物の発生が200t以上)

○産業廃棄物に関する委託契約書は、提出を求めず提示のみとする。〈従来ルールの徹底〉

1 3 その他

(作成上の留意点)

○その他必要な項目について、記載する。